

健(検)診から健康経営まで、健康づくりに本会が協力したお客様を紹介するシリーズです

# 「チームよぼう」が応援します!

## 第2回 東京都神津島村役場 様

今回ご紹介するのは、都心から南へ約180\*メートルに位置する東京都神津島の村役場様。島民の方々を対象とした特定健康診査や乳がん・子宮頸がん検診で、本会をご利用いただきました。



東京都神津島村役場保健医療課課長の氏井重和さん(右から2番目)とスタッフの皆さん

### 「住んでよかった神津島」をメインスローガンに住民健診の無料化を実現

伊豆諸島のほぼ中間にある神津島は、島全体が富士箱根伊豆国立公園に指定されている美しい島だ。周囲約22\*メートル、面積18・58平方\*の地域に約2000人(約900世帯)が生活している。

健診の実施に当たっては、離島ならではの特色はあるのだろうか。神津島村役場で健診を担当する保健医療課長の氏井重和さんに話をうかがった。

「来島してみてもわかりかと思いますが、住民が暮らす地域は前浜海岸周辺の一面に集中しています。だからこそ、情報が伝わりやすく、浸透しやすいといった特徴があります。健康情報に関しても、ヘルスリテラシーの高い人からすぐに広まりますので、住民の健康意識も高く、そうした住民のニーズに応えるために、健診の内容は比較的充実していると思います。」

それに加え、浜川謙夫村長が「住んでよかった神津島」というスローガンの下、住民健診の無料化を公約に掲げたこともあり、現在、住民健診は無料で実施しています。

では、受診勧奨はどういった方法で行っているのだろうか。「神津島にはケーブルテレビ(CATV)があります。1972年から始めたもので、自治体としてCATVを持ったのは、全国で神津島村が一番始めなんです。そのCATVの文字放送で健診の情報を伝えていきます。」

それに加えて村内の防災行政無線や広報誌、お便りなどでも繰り返し住民に周知していますので、島にいれば必ず目や耳に入る状況です。

あと、診療所の先生も、健診の時期が近づいてくると患者さんに声をかけて来ています。そういうこともあって、健診受診率は比較的高い方ではないかと思えます。」

### 健診や乳がん・子宮頸がん検診を受診された方からの声

今年5月、本会は神津島村の健康センターで特定健康診査や乳がん・子宮頸がん検診を実施した。受診された方々に、その印象や感想をお聞きした。☆島では人間ドックなどが受けられな



神津島港の南側にある前浜海岸。美しい白浜が約1km続いている

いので、年1回の健診を受けるようにしています。(男性)  
☆子宮頸がん検診を受けた気がしますが、とてもスムーズに終わりました。優しい先生でよかった。(女性)  
☆年1回なので毎年必ず受けています。(男性)  
☆マンモグラフィは今回が初めてです。

うわさ通り痛かったけれど大丈夫でした(笑)。(女性)  
☆乳がん検診でのおしほりが温かく、気を使ってくれている感じがしてよかったです。痛みもなく憂うつにならずに済みました。(女性)  
☆以前は診察待ちで時間がかかったこともありました。ここ最近はずっとスムーズですね。(男性)

### 健康づくりをさらに充実させるために

健康センターでは、健診以外にも、健康運動の教室を月2〜3回開いて生活習慣病予防対策に努めたりと、さまざまな事業を行っており、そうした活動も住民の健康意識を高めるのに役立っているという。今後は、新しい検査なども積極的に取り入れていきたいと語る氏井さん。

「マンモグラフィ検査は2014年から導入しました。他の地域では当たり前になりつつある時期で、そろそろ導入を考えなくてはと思います。村民にマンモグラフィを知っているのか、どう思っているのかを個人的に聞いてみたくです。そうしたら皆さんの方がよく知っていて、『そろそろ入れてくれるかな』と思ってました」といった声もありました。そこで東京都予防医学協会さんをお願いして、マンモグラフィ検診車を貨物船で運んでもらい、実施に漕

### 離島での出張健(検)診

### 神津島での特定健診、乳がん・子宮頸がん検診 編

- ★実施した内容  
特定健康診査、乳がん検診、子宮頸がん検診
- ★事前準備  
スタッフ一同、入念に打ち合わせを重ねる
- ★出張  
・マンモグラフィ検診車は貨物船で神津島へ  
・スタッフは船で神津島へ  
・到着後は翌日からの健(検)診に備えて会場を設営  
・出張健(検)診を実施。  
検体は毎日航空便で本会検査室へ輸送する



- ★健(検)診終了後  
・約1週間の出張健(検)診を終えたスタッフは飛行機で帰途へ

ぎ着けたという経緯があります。もっと楽で、安全で、効果的な健診が提供できるように、常にアンテナを高くし、新しいものを検討していくのが仕事だと思っています」

「島民一人ひとりが『神津島で暮らしてよかった』と思える環境を作れるよう、われわれも行政マンとして健康づくり施策を進めていきたいと思っています」と意気込みを語った。

※ご登場の皆様の肩書きは、インタビュー実施当時のものです